

# ココロンカフェレポート

～第1回と第2回を振り返って～

## ココロン・カフェとは

仙台市では、「共生する社会」を実現するために、障害を理由とする差別の解消を推進するための条例の制定について、検討を開始しています。条例の検討にあたっては、障害のある当事者の方の意見を伺うとともに、市民の関心を高め、幅広く理解を得ながら進めていくことが大切だと考えています。

そこで、障害の有無にかかわらず広く市民が参加し、障害のある人となない人が知り合い、お互いに理解を深め、意見交換ができる場としてワークショップ「障害のある人もない人も暮らしやすいまちづくりを考えるカフェ（愛称：ココロン・カフェ）」を開催しています。平成26年度は4回のココロン・カフェを開催します。このレポートでは第1回と第2回のカフェの様子やいただいたご意見などをご紹介します。

## 開催概要

第1回：平成26年10月22日（水）10時～

仙台市福祉プラザ1階プラザホール

第2回：平成26年11月23日（日）14時～

仙台市役所本庁舎8階ホール

## 当日の様子

初回の10月22日は、雨天にも関わらず43名の方が来場され、活気あふれる開催となりました。

はじめに、仙台市から条例の検討状況について説明があり、続いてワークショップ開始です。グループ内で自己紹介の後、意見交換を行いました。皆さん話したいこと・聞きたいことがたくさんあって「時間が全然足りない」といった様子でした。第2回の11月23日は、休日開催ということもあり、学生の方の参加も多く、初回を大幅に超える69名の方々にご参加いただきました。

## ワークショップでの様子

第1回と第2回は共通の3つのテーマ「障害ってなあに?」「障害に関する自分の体験について話そう」「障害のある人もない人も暮らしやすいまちにするためのアイデアについて話そう」についてワークショップを行いました。障害により困ることの実体験や社会の現状・疑問点、暮らしやすいまちにするための提案や要望、ワークショップに対する意見や感想など様々な発言が出ました。

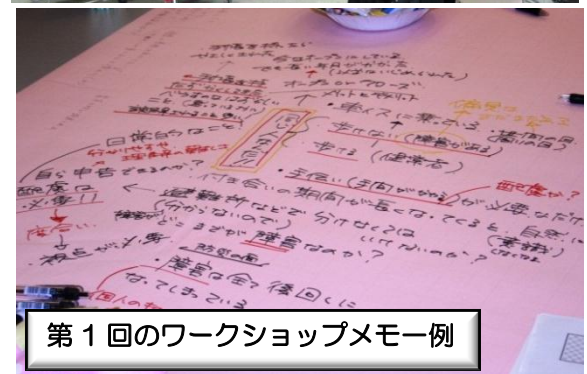
ワークショップの最後に、もっとも印象に残ったことを附箋紙に書き出してもらいました。書きたいことが沢山あって、一枚では足りず、複数枚書かれた方も多かったようです。



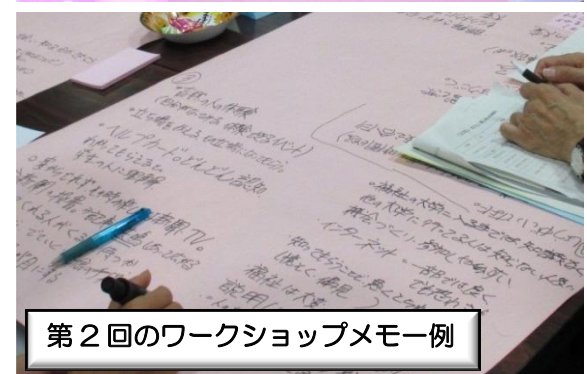
第1回の様子



第2回の様子



第1回のワークショップメモ一例



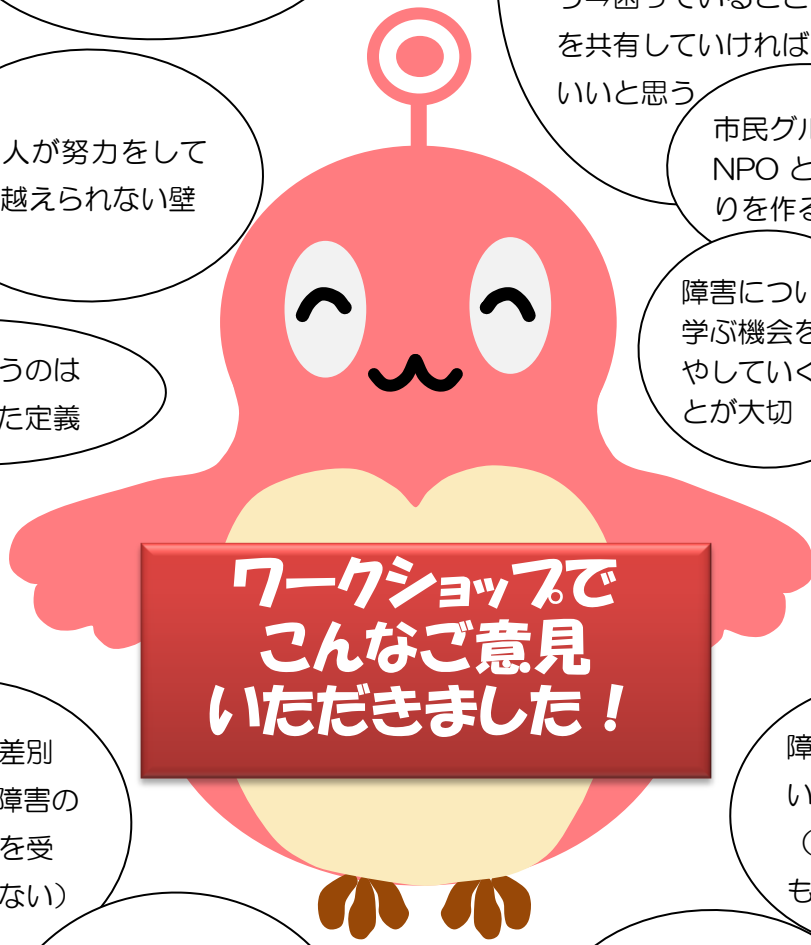
第2回のワークショップメモ一例

# 障害ってなあに？

- 障害は環境因もある⇒色んな多様性を認めて欲しい
- 社会の中に「障害」という壁がある
- 障害とは、人の判断によるものなのでは？本人が苦痛に感じていれば障害になりうる
- 同じ症状を持っていてもそれぞれ違う
- 本人が努力をしても越えられない壁
- 「障害」というのは健常者が作った定義
- 障害部分=得意不得意と同じ
- 努力などに関わらず生活に差し障りがある
- 本人と周りとのギャップ
- 見た目では分からない「生きづらさ」があること
- 障害=個性

# みんなで出来る取り組みは？

- 参加しやすい機会づくり（楽しく理解しあえること）
- 子供のころから出会いがあればそういう環境にいれば
- 一人ではできないことは互いに支え合ったり、心を寄せたり、見守ったり
- 色々なものから排除されないことが必要⇒理解・受入れをして仕組みを作る
- ココロン・カフェのような話し合いの場に一般の方や企業の方等にももっと広めて参加してもらう
- 市民グループ、NPO とか繋がりを作る
- 音楽を共有すること、交流の場づくり（音楽は障害を越える、とっておきの音楽祭がその象徴）
- ものさしとして条例が必要⇒障壁をなくすためにみんなで考えよう
- 相談を受けてくれる人⇒ジョブコーチ必要
- 障がい者がいるということから始まると思う⇒困っていることを共有していければいいと思う
- 音楽について学ぶ機会を増やしていくことが大切
- 音楽を共有すること、交流の場づくり（音楽は障害を越える、とっておきの音楽祭がその象徴）
- ものさしとして条例が必要⇒障壁をなくすためにみんなで考えよう
- 相談を受けてくれる人⇒ジョブコーチ必要
- 障がい者がいるということから始まると思う⇒困っていることを共有していければいいと思う
- 音楽について学ぶ機会を増やしていくことが大切



ワークショップでこんなご意見いただきました！

# どんな体験をしたことがありますか？

- 偏見で就職出来なかった（断られた）
- てんかんについて誤解があり学校行事に参加出来なかった
- 周囲から誤解を受けた（いじめを受けたことがあった）
- 家族からの差別を受けた（障害のあるわが子を受け入れられない）
- 車イスで社会に出ると『何だろう？』と見られたり、タクシーに素通りされたりした
- 震災時、車イスの方の配慮をもらえなかった
- 歩いていると人がマネをする
- 毎日働きたいが働くことが出来ない
- 災害時に支援が後回しになる
- 障害の為、社員の一覧に加えられていない
- 障害を親の子育てのせいにされた
- アパートなど大家さんの理解は広まったが大家さんの家族の理解が得られず断られてしまう

# 障害当事者の声が大事！！

- 障害者の体験や思いを聞いて欲しい（ハード面の思いも聞いて欲しい）
- 言いたいことが言えるようになることで障害が軽減できる
- 施設から近隣のお付き合い、分かりやすい発信
- カミングアウトしても、差別を受けず支え合える世の中になるとよい
- 自分から言うと相手分ってくれる（隠さないで理解を進める）
- 色々な人達や機関を巻き込む
- 見た目で分からないことを知ってもらう
- 困ったときは度胸を持って自分から訴える（スピーカーズビューロー）
- 理解を得るため自分の説明書を作る
- 障害のある方も出ていって市民にも分かってもらうことが大切ではないか
- 障害を理解してもらうため、色々な場所に出て発信していく





# ココロンの木

意見交換で心に残ったことなどを  
附箋に書いていただきました

障害があっても無くとも相手に気遣うことは大切

障害のある人とない人の違いとは何か？（どこで線をひくのか）

バス・電車などで困っている話しをした際、同じ席の方が深くうなずいてくださって『よく話してくれましたね』と握手を求めてくれたことが本当に嬉しかった


障害とは、生きづらさ！みんなに分かってもらえないことを、自分で出来ないことをどうやって克服していくかが大変

社会の中で情報を共有し多様性を理解しあえるようになるといい（ネットワークづくりの必要性）

障害を知る機会を子供の時からつくって理解できる社会づくり

障害を理解してもらう場だけではなく、障害について知りたいたいと思ってもらえるようなことも考えていくと良いのではないかなと思う

## 意見の実収穫！！



障害についての考え方には沢山あり、正解は一つではないと感じた

障害のある人への対応で「何かあったら困る」とよく言われるが「何か？」って何なんだろう

## 「ココロン・カフェ」に対しても

### 沢山のご意見をいただきました！！（抜粋）

- ◇ 関係者に片寄らず、今後の開催には民生委員や社会福祉協議会の団体に、声がけてほしい。
- ◇ 障害のある方とそうでない方とが交流するイベントスペースを設けて当事者意見を聞く場面が設定されればよい
- ◇ 色々な立場、世代の方とお話しが出来、とても良い経験でした。
- ◇ 初めての参加で障害についてもう少し話し合いの場があれば良いと思った。自分が色々と言言出来たことが良かった。
- ◇ 障害というのを深く知る為にこうしたイベントをもっと増やしたらいいなと思う。
- ◇ 普段、同じ事務所の方としか交流会等してなかったので、他の方とセッションできて、すごく勉強になった。
- ◇ 今回参加された皆さん、生き生きして見えました。